

「アジア防災科学技術情報基盤の形成」に関する第3回年次ワークショップ (Third Annual Workshop on Disaster Reduction Hyperbase - Asian Application)

実施概要報告書

1. 日 時 平成 21 年 1 月 8 日～9 日

2. 場 所 科学技術振興機構 (JST) 東京本部・JSTホール(東京)

3. 目 的

- ・科学技術振興調整費「アジア防災科学技術情報基盤の形成」(DRH-Asia)プロジェクト(平成 18 年度～20 年度)の最終年度(平成 20 年度)を締めくくる国際ワークショップを開催した。
- ・DRH-Asia プロジェクトは、平成 17 年度の科学技術振興調整費で実施されたフェーズ1プロジェクトにおいて確認された決議 (Tsukuba Resolution) を基礎に、DRH-Asia をウェブ上に構築し、その活用を図るものである。
- ・本ワークショップは、以下の項目について結論を得ることを目標に実施した。
 - 1) DRH プロジェクトの成果の確認
 - 2) プロジェクト終了後の課題の確認
 - 3) 今後の行動計画の明確化
 - 4) これらの内容を決議 (Tokyo Resolution) にまとめる

4. 参 加 者

人数 : 59名 (下記ウェブサイトに掲載)

参加国 : 日本、バングラデシュ、イラン、ネパール、インドネシア、インド、ペルー、アルジェリア、中国、トルコ、フィリピン、欧州連合共同研究センター(EC/JRC)

5. 成 果 (発表資料は http://drh.edm.bosai.go.jp/Project/Project_top.htm から pdf ファイルでダウンロード可能)
本ワークショップの成果は、以下の決議文 (DRH Tokyo Resolution 2009) に要約できる。

- * 「アジア防災科学技術情報基盤の形成」に関する第 3 回年次ワークショップ (東京:2009 年 1 月 8-9 日)の参加者は以下の事項を合意した:
 - (1)DRH アジアのウェブサイトをよりユーザーフレンドリーで、また以下の事項でより魅力的なものに改良する。
 - +ウェブデザインと操作性の改善 / +ウェブサイト使用要領や情報の充実 / +PreventionWeb などの他のサイトとの協力 / +多言語対応の充実
 - (2)DRH コンテンツは基本的によく整備されたが、さらに以下の改善が望まれる
 - +コンテンツの有用性、長所短所に関する評価システムを整備する / +現在までに提出されている提案のデータベースへの登録を促進する
 - (3)将来の DRH の運用において、以下の事項を実現すべきである
 - +DRHコンソーシアムの活動の活性化 / +DRHの地域連合の形成 / +DRHの地域分散体系の構築:すでに動き始めている DRH-China と DRH Europe/Africa に加え、DRH-Nepal や DRH-Bangladesh などの国別 DRH を促進する / +パンフレット、ジャーナル、書籍、ISDR-DRH 共同出版を推進する / +DRH は適用実践を重視する "IDRiM" ジャーナルの発刊を歓迎し、連携する / +優秀なコンテンツ提案者やユーザーの表彰を推進する / +次世代を担う若手の DRH リーダーを育成する / +DRH 活動を向上し、継続発展させるため、ADRC, UNESCO-IHP, CASiFiCA などの国際的組織やイニシアティブと連携する / +活動予算の獲得に努める
 - (4)DRH コンソーシアム (2008 年 2 月 22 日、北京における第2回年次ワークショップで憲章を採択)を活性化し、以下の機能を発動する
 - +会員:会員名簿を整備する。組織会員も歓迎する / +幹部会員:幹部会員を正式に組織する / +年に1回、適切な機会に総会を開催する



「アジア防災科学技術情報基盤の形成」に関する第3回年次ワークショップ (DRH WS3) 実施状況

(報告:DRH プロジェクト研究代表者・亀田弘行／地震防災フロンティア研究センター国際チーム)